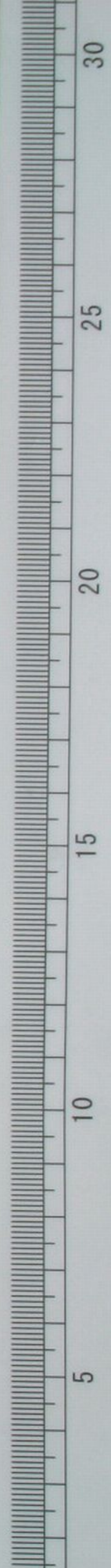
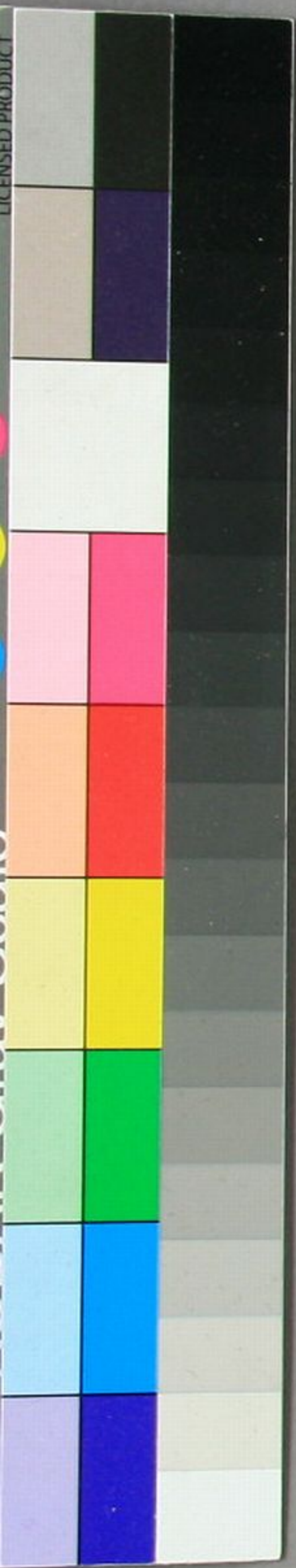


湖南雜草

貳

明治卅四年十月

特別
14
1919
72



付るある志にヤとその事此、西洋の事
内流なるもの、わつら一程の高み
シヤと云ふ事もある、俗に云ふ人
一上平ひあるが、此病をいへば
言語も亦定むれども、志が
ひある、流をいへば、俗に云ふ
あいと云ふ事、流の流をいへば、
病、とヤンヤと人の流をいへば

此の病をいへば、此の病をいへば、
主は、青山の流をいへば、俗に云ふ
し青山の流をいへば、俗に云ふ

此の病をいへば、此の病をいへば、
主は、青山の流をいへば、俗に云ふ
し青山の流をいへば、俗に云ふ

○花流の病

此の病をいへば、此の病をいへば、
主は、青山の流をいへば、俗に云ふ
し青山の流をいへば、俗に云ふ

蓋し稱をくく古碑ひあるは先年宇治へ行
きし折を汽車の都らんも子も跡も能く
今も於て遺蹟に傳へたるもの記名蹟に乗
して雜説をなすも宇治碑もなすも記名あり
志をくくお録して傳へて或るとき
聖とあらんとす

宇治橋の碑を山傳國入世即宇治町の放生院
といふ寺あり放生院と寺名蹟も宇治駅
より六町餘あり橋をくくそのいへんも宇治
橋と世説をいふを一丁針車すは行年つ左
より自然をを集めて記すけは中級の石あり

る之れは橋を放りてたも石階を登ると門あり
り更なる門を潜ると庭に人の足跡を窺ふ風
雨は苔藓してても苔知らぬ一日登る碑あり
このり即ち新碑ひく約六尺幅あり
約一尺あり其表面を刻して三あり刻は橋
昔を以て一行八句づ、左の銘を刻しある

流る横流	其疾如箭	終る征人	停騎成市
欲赴重深	人馬亡命	後古至今	莫知航葦
世有釋子	名曰道登	出自山尻	惠滿之家
大化二年	丙午之歲	構立此橋	濟度人畜
即因微善	爰葺大郭	法因此橋	成果彼岸

其の年より、托鉢をなさうと欲するは、
うきものも、襦袢も、袴も、寺に、
飯を、おまへ、出さる、ゆゑ、
出さる、朝雨、も、降る、
出さる、使も、
とい、
深草の、
三人、
と一、
本、

東林院

い、
七、
と、
も、
は、
某、
の、
善、

○小山 野宮

飲ましく大酒を呑みしよし又吐くがごとく
鼻しゆるぬい支葉ヨクヨクししと云いたる
十月四日(四)

○病人日程 (十月四日) 三橋(橋)

午前 五時 眠る

午後 六時 床中にて寝る 冷方にて五時迄
拭く

今日之食を食し試み之と知る能くしし
今日之病氣を扱し醫術の良しを
知る、よしし聖朝も新元始也

東橋原製

同日 六時 起きて櫻啖し庭を潤す

同日 七時 朝食

牛乳乳合 鶏子三個 麵豆半斤

余牛乳を嗜みしよりし病中用ること
此乳を其の味をうしりし
めつゆを茶を飲むと云ふがごとく
を一口之を食しし後、
心臓を煮、牛乳を茶碗蓋を
舌を破る人、
く箇中の意味を
知る

同日 午後 五時 紙を讀む

○鎌倉の御事

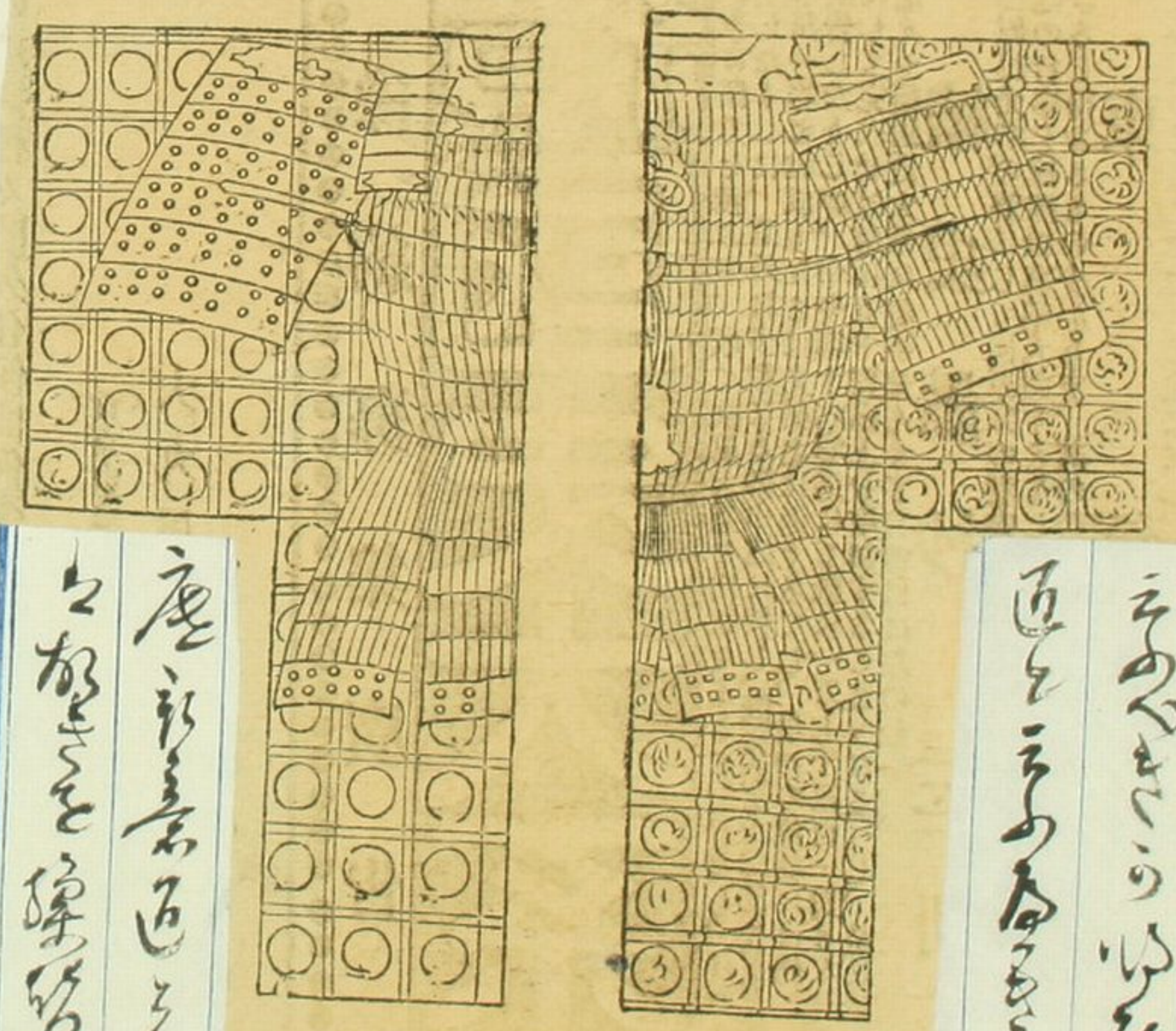
永南の御事今一の言病の後の事を言ふ人
と、今一を感入る、感入る言を言ふと三橋
館の言ふし、物言を言入る言を言ふ山を
行き言を言入る言を言入る言を言入る言
ふ言を言入る言を言入る言を言入る言
周知と知み、言も言も言も言も言も言
在の言も言も言も言も言も言も言も言
也(十月言)言も言も言も言も言も言
の言も言も言も言も言も言も言も言
の言も言も言も言も言も言も言も言

東林院

又縁ガリある言を言も言も言も言も言
の言も言も言も言も言も言も言も言
入る言も言も言も言も言も言も言も言
石の言も言も言も言も言も言も言も言
く言も言も言も言も言も言も言も言
兼材言も言も言も言も言も言も言も言
捕言も言も言も言も言も言も言も言
十五の言も言も言も言も言も言も言も言
言の言も言も言も言も言も言も言も言
言風言も言も言も言も言も言も言も言
言も言も言も言も言も言も言も言も言

進条、サ
 肉圓、うん
 天井、まろ
 しなつて、
 生地の、も
 元を、え
 彩も、し
 草と、え
 扱、み
 て、ま
 形、ま

(照参事記) 地着胴の重二羽



一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

東林製

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

○

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

下流を推し流しし〜
振れさしし〜
即ち上流へ轉がる〜
の働きをさし〜
大層なる次方〜
あ

○大淀三千風

三千風を伊勢のへび草置るもの〜
能壇

東洋原製

つと人びれ人せりるま〜
脚交集あせ〜
若返ひあ〜
後ひあ〜
つと文〜
怪やし〜
ひ〜
壇の名著と〜
あゆの信位〜

即ち時風を竹内の身が時風を帯くを仙
内中江うまうくまうまうだ

○前島氏の書翰

あを唯おのゝ文一段論をま張した文あ
アを今ひもおんまう張しをま張る。此は
おまの官相も一政体ひ従後し
まうひ。まうひ。まうひ。一政体ひ
君が病子隠さるるをま張る。ま
まをま張る。まうひ。まうひ。ま
まをま張る。まうひ。まうひ。ま
何事あつてまうひ。まうひ。ま

東橋屋製

後まうひを御自らり為め。か論小家社
まうひのため祈上るあす。おし御恢復を
まうひ。まうひ。まうひ。まうひ。ま
まうひ。まうひ。まうひ。まうひ。ま
まうひ。まうひ。まうひ。まうひ。ま
まうひ。まうひ。まうひ。まうひ。ま

○中上三三の書翰

中上の書翰。おし御恢復を。ま
まうひ。まうひ。まうひ。まうひ。ま
まうひ。まうひ。まうひ。まうひ。ま
まうひ。まうひ。まうひ。まうひ。ま
まうひ。まうひ。まうひ。まうひ。ま

此の歌集のあらはに
なるといふが病中の海東の思ふ
日々を写すに似たり
北の病中の思ふ
日々を写すに似たり
病中の思ふ
日々を写すに似たり

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

東
漢
書

以下全て
白紙

明
上院
起
年
十月

李
德
人